

## 令和4年度 第2回苫小牧市総合戦略推進会議 議事録要旨

- 【日 時】 令和5年1月11日（水）14:00～15:30
- 【場 所】 苫小牧市役所9階 議会大会議室
- 【出席者】 佐藤(郁)会長、菊田副会長、荒川委員、大沼委員、片石委員、  
工藤委員、千葉委員、成田委員、畑中委員、平川委員
- 【事務局】 苫小牧市 政策推進室 山田室長、  
政策推進課 茶谷課長、吉田課長補佐、水谷主査

---

### 議 事 次 第

---

- 1 開会
- 2 議題
  - (1) 【第2期】苫小牧市総合戦略中間見直し案について
  - (2) 意見交換（質疑を含む）
- 3 その他
- 4 閉会

## 2 議題

### (2) 意見交換 ( 質疑を含む )

#### < A 委員 >

社会情勢やコロナ禍の情勢を踏まえながら、施策やKPIを実態に合わせる必要があると思うので、見直しの方針の基本的な考え方は賛成。

変更内容1で、ゼロカーボンシティの実現に向けた取組の推進の追加は、苫小牧が地域を挙げて推進していくということであれば、これを基本目標の中の施策として入れたのは良いと思う。変更内容等々については、前回の討議を踏まえて盛り込んでいただいております、納得性のあるものだと思う。

私の希望としては、盛りだくさんの施策、事業になっているので、重点的に取組むべきものというように、強弱をつけたほうが分かりやすいのではないかと思います。

全部力を入れてやると、最終的に全部実現できないまま終わるといようなリスクがあると懸念しているので、多くの施策の中でこれは外せない施策だといようなものがあつたほうが分かりやすいのではないかと。

#### < B 委員 >

修正案に関しては、特段意見等はない。

A委員の意見であったように、私も効果性の高い施策・事業に集中してもいいのではないかと少し感じる。市役所の職員のリソースには限りがあるので、より効果性の高いもの、大きく成果が出そうな事柄に注力したほうがいいのではないかと。

#### < C 委員 >

人口減少は本当に止められないという実感がある。苫小牧市の人口を増やすための考え方の一つとして、自然増があるが、これは非常に厳しい。また、自然増となった場合に、保育、働く場、女性の仕事復帰など、受け皿が充実していなければ、子どもを産みにくいという状況になる。

そうすると、他の土地から移住していただくことが必要になるが、住みたいまちトップクラスといった際立った特徴がなければ、移住も増えてこない。

前回の会議で、3歳児までの保育園の保母さんの数が足りないのではないかと質問した。今回の修正案では、一時預かり事業の保育所型の利用児童数の目標値が、6,165人から3,000人になっている。これは利用する要望がないのか、それとも受け入れられないのかを確認したい。市内で保母さんの資格を取ることができる専門学校を建設してほしいという要望を、女性会の方から出したが、出来ないということだった。一方、千歳市では、保母さんの資格を取ることができる学校が出来上がる。

人口減少に歯止めをかけるためには、建物といった受け皿の支援も必要だが、ソフト面の支援も必要だと思う。こどもを安心して預けて職場復帰をスムーズにするなど、働く女性の支援にも的を絞って取り組んでほしい。

ただ、様々な取組を実施するには、何分にも財源が必要になる。そこで、ふるさと納税による財源の確保をさらに進めることが出来れば良いと思う。紙のまち苦小牧なので、トイレトペーパーをアピールすれば、かなりの税収が見込めるのではないか。しかし、ふるさと納税のサイトでトイレトペーパーを検索すると、トップの方から富士宮ばかりが出てきて、残念だった。サイトの一番前に紙のまち苦小牧があがってくるといった、ふるさと納税の効果的な売り込み策があれば良いと思う。

ふるさと納税で財源を確保し、様々な取組にお金を使っていたきたい。

#### <D委員>

コロナやウクライナのエネルギーコストなど、日本全体の社会経済情勢は大きく変化しており、苦小牧市もこの影響を受けている。計画を見直す上で、これらの状況を踏まえ、シビアに見なければいけない部分があると思う。

説明資料の6ページ目に、地元企業と連携して小学生を対象としたと記載があるが、なぜ小学生に限定するのか疑問に感じた。

計画の見直しをする上で、苦小牧市の特徴に重点を置いた見直しをすべきではないか。

説明資料の8ページ目に、氷都とまこまいの文化でもあるアイスホッケーという項目があるが、苦小牧市がスポーツ都市宣言をしているのであれば、スポーツに対する取組をもっと主張しても良いのではないか。

もう一つ質問になるが、見直し案の66ページ目に、はちとまネットワーク推進事業とあるが、なぜ「はちとま」なのかなと疑問に感じた。「とまはち」と書くべきではないか。

いろいろな意見がこの後も出てくると思うので、後ほど質問があればしたいと思う。

#### <E委員>

人口減少時代の中で、苦小牧市が人口を増やしていくためには、結婚、知り合うきっかけづくりが必要だと思う。また、各企業のフレックスタイム導入の促進も必要だと思う。なかなか企業のフレックスタイム導入が進んでいない現状がある。導入が進めば、もっと子育てしやすいまちになるのではないか。

C委員からふるさと納税に関する意見があったが、私も、苦小牧市のホッキ、とまちヨップ水など、強みのアピール方法を工夫し、多くの寄付を集めることが必要だと思う。

氷都とまこまいのところで、苦小牧市はアイスホッケータウンという位置づけになっているが、スピードスケートやカーリングなどを取り入れ、3本柱くらいで氷都とまこまいの体験プログラムを作ってみてはどうか。

#### <F 委員>

前回の会議で出た意見を踏まえ、KPIの変更がかなり多くされており、現状に見合った変更をしていただき感謝する。

その中で、見直し案の35ページ目に、「5. 多様性に富んだ社会、安全・安心な地域づくりで地方創生を推進」と記載があるが、福祉に関しての内容が子育て以外ほぼ無いと感じた。福祉と経済という関連でもう一項目記載があっても良いのではないか。

見直し案の49ページ目に、放課後児童クラブの充実がある。これは、保護者が就労等により昼間家庭にいない児童に対して、適切な遊びや生活の場を提供することで健全な育成を図るというもの。この事業は、保育を受けるにあたり、この事業の枠内で対応可能なお子さんを預かっている。

一方、発達障害や特別支援学級に通級しているお子さん、肢体不自由の障害があるお子さんなど、この事業で対応が難しいお子さん達は、放課後等児童デイサービスを利用している。最近、そういう支援を必要とするお子さんは非常に増えており、お子さんのそういう事情を抱えて働くお母さんがたくさんいる時代になってきている。このため、放課後児童クラブの充実のところに、放課後等児童デイサービスということも盛り込めるのであれば、盛り込んでほしい。

保育士不足により、保育士達はすごく疲弊している。保育士を募集しても来てくれる人がいない。また、保育園の配置基準は4歳、5歳児は70年、1歳、2歳児は50年、0歳児は20年以上変わっていない。このような状況の中で、やはり保育士の配置基準は見直しが必要になるということをお伝えしたい。これからの時代を担うこどもを育てる現場に、何とか改善が図れないかという願いを込めて発言させていただいた。

#### <G 委員>

前回の会議で、結構意見が出尽くして、意見はある程度反映されているため、中身については問題ない。

数値目標・KPIの内容変更のところで、新たな指標のほうが、既存の指標より好ましいと判断し変更したと説明があったがもう少し具体的に聞きたかった。また、観光関係の目標値は、コロナの影響もあり、現実的な数値ではないのではないかと感じる。

また、他の委員からも意見があったが、これだけ目標があるとチェックするだけで終わってしまうといった懸念がある。このため、力点、ポイントを絞って、あまり総花的にならないような運営、実行が望ましいのではないかと感じる。

#### <H 委員>

中間見直しの内容については良いと思う。ただし、他の委員からも意見があったが、内容的に多いため、少し絞った方が確実性があるのではないかと感じる。

昔、私は保育士をやっていた。保育の面から発言させていただく。苫小牧市では、今年の4月に私立の保育園が1か所、民間の保育園、事業所内保育だが2か所閉鎖する予定。閉鎖の理由の一つとして、保育士が足りなくてやっていけないという話を聞いた。C委員から発言があったと思うが、千歳市では、保育士、介護士、その他いろいろな資格を取れる学校が、今年の4月に開校する。苫小牧市で人口を増やすためにどうしたら良いのかということを実際に考えたとき、やはり必要なことは、働く職場、安心して子育て出来る環境の充実だと思う。若いお母さん達にとって本当に働きやすい環境がなければ、人口は増えてこないのではないか。また、放課後、各学校や児童館にこどもを預ける施設が足りないと思うので、これらの充実も考えなければいけないと思う。

#### <I委員>

見直し案の実効性について、多くの委員から意見が出たと思うが、やはり、効果の高いものを見極め、量ではなく質を高めることが一番重要だと感じる。

学生と地元企業との交流ということで、本校では地元企業に協力をいただき、授業、共同研究等を進め、地元企業との交流を深めている。交流を深めることで、学生は地域にはこんな優秀な企業やユニークな仕事をしている企業があるんだということに気づく。そういう機会が多くなることは非常に良いことであり、北洋大学のインターンシップ事業は素晴らしい試みだと思う。本校も市と協調しながら、学生の意識が高まるようなことが出来るのであれば、一緒になって進めていきたいと感じている。

その他、ゼロカーボンシティはものすごいチャンスになると思う。どこの自治体も再生可能エネルギーの導入や水素社会の実現など、ゼロカーボンシティの取組としていろいろなことを言っているが、具体的なものが見えてこない。

逆に苫小牧市では、こういう特徴を持って取組をしているということアピールすることが出来るチャンス。ゼロカーボンシティを苫小牧市が率先すれば、苫小牧市は北海道の中でも有数な工業都市というイメージだけではなく、再生可能エネルギー、これから未来をリードするまちを目指しているということを示すことが出来る。また、エネルギー高騰の問題解決や災害に強いまちというイメージもアピールできると思う。

そうすると、苫小牧市に移住を検討する人がどんどん増えてくるのではないか。

苫小牧市の特徴を全面的にPR出来るようなまちづくりを進めるべきと感じる。

#### <政策推進課主査>

一時預かり保育事業で、目標値が6,165人から3,000人になった理由について回答する。まず、保育所型と幼稚園型は、それぞれ利用対象者が異なっている。保育所型は保育園に在籍していない児童を対象とし、一方、幼稚園型は、保育園、幼稚園種類問わず在籍している園児を対象とした預かり保育となっている。3歳児以上の保育の無償化や、女性の社会進出の推進により、保育園の利用者が増加しているため、幼稚園型の利用者が

増えている。保育所型を選ばなくなったとかではなく、社会経済情勢の変化を踏まえ、保育所型の目標値を6, 165人から3, 000人に変更している。

#### <政策推進課長>

ふるさと納税の意見があった。苫小牧市に寄附していただいたふるさと納税額は、令和2年度が5億円、令和3年度が10億円、今年度は12月時点で13億弱となっており、順調に伸びている。寄付額の8割が紙製品であり、我々としても紙のまちということで、売り出していきたいと考えている。

ふるさと納税のサイトで検索しても、なかなか出てこないという意見があった。現在、苫小牧市では、ふるさとチョイス、さとふる、楽天など、4つのサイトを使用している。ふるさと納税のサイトは十数個あり、この4つのサイト以外で検索したため、出てこなかったのかもしれない。いずれにしても、サイトを増やすことで寄付額が順調に伸びている経過があるため、引き続き、サイトをさらに増やすなどしてふるさと納税の獲得には力を入れていきたい。

なぜ小学生に限定するのかといった意見があった。見直し案の42ページ目の一番上に、キッズタウン開催事業がある。この事業は、小学生の小さいうちから地元企業と触れ合い、接点を設ける事業で現在も続いている。一方、見直し案の42ページ目の一番下に、市内大学インターンシップ支援事業を今回の見直しで追加した。小学生と大学生の事業はリンクしているものではなく、今回の見直しで新たに市内大学インターンシップ支援事業を付け足したことから、施策概要がこのような記載ぶりとなっている。

氷都とまこまいの事業について意見があった。昨年12月末に、アイスホッケーに着目したモニターツアーを実施し、3組の家族が参加した。レッドイーグルスやスマイルジャパンの大澤ちほさんに協力いただき、アイスホッケー関係者との交流や練習など、様々な取組を行った。参加者は苫小牧市に大変興味を持ち帰っていただいたため、かなり事業としての手応えはあった。また、この事業は、4年前に1度実施しており、その時は参加者4組のうち2組の家族が苫小牧市に実際に移住するなど、かなり実効性の高い事業だと考えている。多くの委員から事業の実効性について意見があったと思うが、こういった苫小牧市の強みをいかした事業を継続していきたいと思う。スピードスケートの話もあったが、まずはアイスホッケーから始め、状況を見ながら拡充できれば良いと考えている。

はちとまネットワークに関する意見で、「はち」が先にくるのはどうかという意見があった。この事業は、令和元年に八戸市からフェリーでつながる工業都市、そして、氷都という共通項があるまち同士、一緒にいろいろ取り組みませんかという話をいただいて以降、はちとまネットワーク会議という名称で進んでいる。設立当初からこの名称なので、名称はこのままで進めたい。

多くの委員から、実効性のある事業など、強弱をつけた取組が必要と意見があり、その通りだと思う。ただ、市役所には100近くの課があり、この見直し案に掲載されている

事業は80弱。市役所では実際にはもっと多くの事業に取り組んでいる中、この80弱の事業を掲載している。ここが強弱の強という部分になると思う。また、総合戦略は人口に着目した計画のため、環境や福祉といった部分はどうしても手薄になってしまうが、こういった部分も強弱の強という部分になると考えている。現在、並行して総合計画という計画の策定を進めている。総合計画は幅広く事業を掲載している計画。総合戦略に掲載されていない取組も総合計画では広く掲載していく形になる。

ゼロカーボンシティの意見があった。先ほど、総合戦略は環境に関する記載がないと説明したが、今回の見直しで初めてゼロカーボンの取組を入れた。苫小牧市は、ゼロカーボン、二酸化炭素の排出量を抑えるだけでなく、産業部門もゼロカーボンを推進しようという取組が進みつつあり、CCUS・ゼロカーボン推進協議会という官民で組織した団体がある。ゼロカーボンの取組を産業界と一緒に進めていることが苫小牧市の特徴で強みになる部分と考え、今回の見直しで追加した。

#### <政策推進室長>

多くの委員から強弱をつけたほうが良い、事業が多いためできなくなるリスクがあるのではないかと意見があった。我々としては、各事業をそれぞれのセクションで分担しているので、結果的に目標を達成できなかったというパターンはあるかもしれないが、できなくなるといったリスクはないと考えている。

ふるさと納税のトイレットペーパーに関する意見だが、苫小牧市の返礼品はネピア製品でトイレットペーパーの中では質が良いもので少し高価。一方、他の自治体のトイレットペーパーはそれよりも安価な製品なのではないかと思う。寄付者はいかに安いものを購入しようという意識があると思うので、サイトの上の方に、苫小牧市が出てこないといった事情があると考えている。

#### <C委員>

他の自治体もネピア商品。ネピアに他の何かを組み合わせるといった商品のバリエーションを増やしたり、量を多くするなど、売り込み方を工夫している。苫小牧市は選択肢が2パターンくらいしかない。富士宮市は選択肢が多くあるため、サイトの上の方に出てくるのではないかと。

#### <政策推進室長>

わかりました。ふるさと納税の売り込み方について努力していきたいと思う。

#### <B委員>

ふるさと納税額が、5億、10億、12億と増えていると説明があったが、逆に苫小牧から流出してる額はどれくらいなのか。

<政策推進室長>

ふるさと納税のプラス、マイナスはどうなんだという質問だと思うが、現時点でプラスになっている。

<政策推進課長>

昨年でいくと、10億の寄付があり、3億ぐらいが出ていっている。仕組みとしては、10億寄付として入ってくるが、3割は返礼品、2割は事務手数料なので、10億入って純粋な実入りは簡単に言うと5億ぐらいになる。それとは別に税金が出ていく部分がある。税金が3億出ていったとすれば、その75%は交付金で戻ってくるので、かなりプラスで進んでいる。

<政策推進室長>

福祉の充実、保育士の大変さ、人材育成という意見は、いろいろな場面で市に要望があり、非常に重要だと認識している。具体的にどのようにできるかという回答は今持ち合わせていないが、重要なご指摘だということを担当課も認識しているので、今後、どのように反映できるかということはこの計画に限らず考えていかなければならない。また、こういった意見が出たことは担当課に伝えてまいりたい。

数値が現実的ではないといったご指摘があった。もし可能であれば、後日でも構わないが、この部分はどうなんだといったご指摘があれば検討したいと思うので、ご連絡いただきたい。

<D委員>

ふるさと納税の商品を提供している企業の話になるが、中途半端でない金額で商品が売れている。商品を提供する企業側にとってもメリットがあるので、別の視点の話になるが、企業側に対するPRも検討する必要があるのではないか。

<政策推進課長>

ふるさと納税のサイトに商品が掲載されると、かなりの宣伝効果となり、寄附金の増だけでなく、市内企業の経済効果にも大きく影響を与えるものと認識している。現在、事業所側からふるさと納税の返礼品に追加できないかと相談があり、返礼品として追加することもあれば、我々の方から商品を掲載しませんかと企業にアプローチすることもある。いずれにしても、税外収入の更なる確保に向けて、返礼品の充実にはこれからも努めていきたいと考えている。